

北に恵めし

(昭和五十八年新寮記念寮歌)

大崎益孝君 作歌
竹中秀文君 作曲 文

一

北^{きた}に恵^{もと}めし若^{わか}き日^ひの夢^{ゆめ}
いつかは壊^{こわ}れゆくものか
すがしき朝^{あさ}の光^{ひかり}と風^{かぜ}は
原始^{げんし}の森^{もり}に消^きえ去^さりぬ
今^{いま}こそ我^{われ}も旅^{たび}立ちの時^{とき}
心^{こころ}の宿^{やど}よいぎざらば

二

北^{きた}の原野^{げんや}を流^{さす}離^らい行^ゆけば
淡^{あわ}き花影^{はなかげ}さゆらぎぬ
今^{いま}も変^{かわ}らぬその涼風^{すずかぜ}に
昔^{むかし}の光^{ひかり}偲^{しの}ばずや
流^{なが}れる雲^{くも}に孤^{ひと}り謳^{うた}えば
果^はてなく夢^{ゆめ}は何処^{どこ}までも

三

北^{きた}を望^{のぞ}みし岬^{みさき}に立^たてば
うち寄^よす波^{なみ}は静^{しず}かなり
されど遙^{はろ}けき今^{いま}樺太^{サハリン}の
色^{いろ}めく空^{そら}を憂^{うれ}い眺^みん
功利^{こうり}し多^{おほ}きこの人^{ひと}の世^よに
誠^{まこと}の迪^{みち}を貫^{つらぬ}かん